

新学会「多文化関係学会(仮称)」設立の呼びかけ

2002年4月

現在、世界は急速にグローバル化の波に洗われつつあります。その中で、文化的背景を異にする人々との間の接触・交流に関わる諸問題を、新しい方法論を模索しつつ学際的に考察する必要性がますます高まっています。とりわけ、従来の国際関係論の枠組みだけでは捉えきれない複雑な文化接触の問題を様々な観点から読み解くことが必要と考えられ、このたび、新たに「多文化関係学」の構築と発展を目指して、新学会「多文化関係学会(仮称)」の設立に踏み出すことといたしました。

つきましては、下記の「設立趣意書(案)」および「主要関連領域(案)」をご参照の上、是非とも、新学会の設立にご参加いただけますようお願い申し上げます。

多文化関係学会 設立発起人一同(*印は設立準備委員)

*青沼智(神田外語大学) 秋山剛(NTT 関東病院) *石井敏(獨協大学) *石井米雄(神田外語大学) 石河久美子(日本福祉大学) 井上孝代(明治学院大学) 上原麻子(広島大学) 岡部朗一(南山大学) 岡村輝人(北星学園大学) 北山忍(京都大学) 久保田真弓(関西大学) *久米昭元(立教大学) 小池浩子(信州大学) 古賀幸久(久留米大学) *小林登志生(メディア教育開発センター) *小松照幸(名古屋学院大学) 白水繁彦(武蔵大学) 杉本なおみ(慶應義塾大学) 杉本裕二(メディア教育開発センター) 清ルミ(常葉学園大学) 高橋順一(桜美林大学) 田中共子(岡山大学) 手塚千鶴子(慶應義塾大学) *遠山淳(桃山学院大学) 東山安子(明海大学) 徳井厚子(信州大学) 鳥飼玖美子(立教大学) 中川慎二(関西学院大学) 中川典子(流通科学大学) 西原鈴子(東京女子大学) 沼崎一郎(東北大学) 野田文隆(大正大学) 長谷川典子(北星学園大学) *林吉郎(青山学院大学) 平井一弘(大妻女子大学) 細川隆雄(愛媛大学)

御手洗昭治(札幌大学) *御堂岡潔(東京女子大学) 宮平勝行(琉球大学) 三輪真木子(メディア教育開発センター) 横田雅弘(一橋大学) ロバート・ワーゴ(明星大学) *渡辺文夫(上智大学) *和田純(神田外語大学)

多文化関係学会(仮称)の設立にご参加いただけます場合は、葉書もしくは電子メールに下記の内容を記載いただき、下記の宛先までお送りください。

【記載いただきたい内容】

お名前、所属、連絡先住所、電話・FAX、email

6月22日の設立総会・記念シンポジウム・懇親会それぞれへのご参加の有無

【送付先】

葉書の場合: 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1

東京女子大学現代文化学部 御堂岡研究室

emailの場合: 件名(Subject)を必ず「学会参加」としてください。

宛先: midooka@twcu.ac.jp

多文化関係学会設立趣意書(案)

21世紀の地球世界は政治、経済に限らずさまざまな面でかつてないほどの文明的試練を経験するだろうといわれている。現代は通信技術と交通手段の驚くべき発展による3つの現象、すなわち、グローバル化(地球化)、リージョナル化(地域化)、およびローカル化(地方化)が同時進行するきわめて複雑な時代に突入したといえるだろう。日本国内においては、グローバル化は社会を活性化させ新しい文化を創造するという「光」の面がある反面、それは民族および文化の特性を画一化するのではないかという「影」の面がある。

こうしたなかで、日本社会は多様な文化的背景をもつ人々が共生する「多文化社会」へと急速に変貌しつつある。このような状況の下で、地域性、歴史観、宗教・信条、人種、エスニシティ、言語、ジェンダーなど社会を構成する人々の広い意味での文化的相違のために思わぬ軋轢・摩擦・衝突が生じている。このような問題の背景にある諸要因を研究し、教育・実践に活かすために必要なアプローチが、新しいパラダイムとしての「多文化関係」の研究である。国際関係論が政治、外交など国家間の権力・覇権関係を研究の中心に置いているのと比べ、多文化関係研究は個人レベルから組織・社会・国家・国際レベルに至るまでの諸問題を、文化的存在である人間を中心とした関係性について研究するものである。

より具体的には、文化研究、とりわけ日本と近隣のアジア太平洋地域の文化研究を柱にしつつ、日本人の異文化接触をめぐる社会変容、交流史、言語、コミュニケーション、心理、教育、ビジネス、交渉などについて多面的にアプローチする。このような研究はこれまでの学問体系を横断的に切り開くものであり、きわめて学際的であることが特徴である。私たちは、このような問題意識とそのアプローチに関心のある研究者・教育者・実践

者の相互交流の機会を増やし、さらには先端メディアを利用して相互に発信し学び合う「国際学習コミュニティ」の実現をも視野に入れつつ、本学会を設立する。

多文化関係研究に関連する主要研究領域(案)

趣意書にも述べられている通り、当研究は、文化研究、とりわけ日本と近隣のアジア大太平洋の文化研究を柱にしつつ、日本人の異文化接触をめぐる社会変容、交流史、言語、コミュニケーション、心理、教育、ビジネス、交渉などについて多面的にアプローチする。下記に掲げた領域は全てが多文化関係につながるものであり、相互に関連しているが、その中で比較的無理なく分類できる5つの柱(社会・心理・言語・コミュニケーション・地域間関係)に便宜上配置した。これ以外にも、関係する領域、分野は多くあるが、それらについては、必要に応じて定期的に改訂するものとする。

- 社会領域** 日本文化論、多文化社会論、国際社会学、社会変動論、文化人類学、比較文化論、開発学、エスニック・スタディーズ、マイノリティー研究、ジェンダー論、多文化組織論
- 心理領域** 文化心理学、異文化接触論、異文化(間)心理学、文化と発達、対人関係論、異文化適応論、異文化理解教育、国際社会福祉学、多文化間精神医学、異文化(間)カウンセリング、異文化研修法
- 言語領域** 言語政策、記号論、異文化語用論、バイリンガリズム、第二言語習得論、英語教育、外国語教育、日本語教育、翻訳・通訳論
- コミュニケーション領域** コミュニケーション論、異文化コミュニケーション論、国際コミュニケーション論、政治コミュニケーション論、医療コミュニケーション論、非言語コミュニケーション論、環境コミュニケーション論、リス

異文化コミュニケーション研究 第14号(2002年)

ク・コミュニケーション論、異文化ビジネス論、異文化
メディア論

ICT (Information Communication Technology)

地域間関係領域 地域研究、文化交流論、国際関係論、国際交渉論、異文
文化交流史、二国間・多国間関係史